

学舎人

一般社団法人和合館工学会 情報誌 [がくしゃじん]

vol. 13

August 2026

第 13 号



特集： 地方建設業とAI — 熟練技術者の経験を未来へつなぐ —

[巻頭言] マクロの視点とローカルな実践
～地域を豊かにし、安心・安全を守る建設業の次なる挑戦～

[会員紹介] 西田工業株式会社

マクロの視点とローカルな実践 ～地域を豊かにし、安心・安全を守る建設業の次なる挑戦～

昨今の国債の動向や株式市場のボラティリティの高さが示すように、現在のグローバルなマクロ経済は極めて読みづらい不確実性の時代にあります。このようなマクロ経済の大きなうねりは、決して遠い世界の話ではなく、私たちが根を下ろす地域経済や建設業界にも直結しており、今まさに企業としてのあり方そのものが根底から問われているように感じています。

この激動の時代を生き抜くためには、これまで培ってきた経験や実績という確かな土台の上に、より客観的な視点を取り入れ、経営基盤をさらに強靱なものにしていかなければならないように思います。我が社では、管理会計を導入し、今期からは工事進行基準を用いることでデータドリブンな経営体制へのアップデートを推進して参りました。さらに本年4月には、福知山と大阪の両拠点にあった同じ部門の垣根を取り払い、時代に即した「機能別組織」へと再編しました。企業は機動的に変化し続け、その時代にあった合理的な基盤を築くことが、すべての出発点となると考えています。

しかし、経営基盤の強化はあくまで手段であり、私たちの真の目的は「地域を豊かにすること」、そして「地域に安心・安全を提供すること」に他なりません。土木・建築という従来のインフラ整備の枠を超え、地域のハードとソフト両面からのまちづくりに参画していくことが、次代の地域建設業に求められる役割だと考えています。

その具体的な実践として、大阪・中津では既存の自社所有不動産「西田ビル」とその附属建物を生まれ変わらせるリノベーション構想（ハード）を進めるとともに、敷地内を活用して定期的に福知山発のフードマーケット「Farmers Tables」などを開催（ソフト）しています。京都北部の魅力的な農水産物や腕利きシェフが集まるこの場には、中津地

域の魅力向上に貢献すると同時に、地方（福知山）と都市部（大阪）を繋ぐ架け橋になりたいという強い想いを込めています。また、福知山においては、子どもたちが多様な競技を通じて夢を追える総合型スポーツクラブ「福知山ユナイテッド」へ協賛し、部活動の地域移行を支える次世代の育成と新たなコミュニティづくりを支援しています。

こうした新たなまちづくりへの挑戦や、インフラ整備・防災という本来の使命である安心・安全の提供を全うする上で、絶対に欠かせないのが本業における「確かな技術力」です。国土交通省から発信される新たな基準への対応や土木・建築分野におけるDX推進など、最新の規制や技術動向は常にキャッチアップし、現場の力へと昇華させていく必要があると考えます。

AIの発展が急速に進んでいる今の時代でも、マクロな視点に立った経営変革、ローカルな地域創生の実践、そして社会を支える現場技術、これらすべてを繋ぎ、実行に移すのは現場で汗を流す「人」に他なりません。

和合館工学会HPToppには、「地域を支える技術者を育てる」とあります。和合館工学会での学びの機会を通じて、広い視野と確かな技術力を併せ持つ私たち業界の「人」が多く輩出され、それぞれの地域と建設業の未来を共に明るく切り拓いていくことを切に願っております。



西田 吉宏

西田工業株式会社
代表取締役社長

令和9年度国土交通省予算概算要求(案)における防衛関連費

国土交通省における令和9年度予算の概算要求の基本方針が明らかになってきました。7月21日に閣議決定された経済財政運営と改革の基本方針2026に基づき、「強く豊かな日本投資枠(要求上限なし)」を創設し、要求・要望は賃金や調達価格の上昇を踏まえて行うとしています。また、補正予算依存からの脱却も謳われています。強く豊かな日本投資枠および裁量の経費では、防衛力整備計画を踏まえた、防衛関連のインフラ整備も含まれる見込みです。

地域建設業人材育成小委員会発足

2022年度以降、2期4年活動した土木学会建設マネジメント委員会地域建設業調査研究小委員会(委員長:今西肇、和合館工学会)が終了し、新たに同委員会地域建設業人材育成小委員会(委員長:奥村誠、東北大学)が発足しました。第1回目となる会合を土木学会全国大会の開催に合わせ、9月1

日に北海道で開催致します。前回の小委員会では、地域建設業のあるべき姿について、主に総論を議論しましたが、新たな小委員会では人材育成に的を絞った活動となります。

ICT施工の急激な深化

国土交通省DX推進本部は、令和6年4月に従来のi-Construction(2016)の次のステップとして、2040年度を見据えて施工・データ連携・管理のオートメーション化を推進する「i-Construction 2.0～建設現場のオートメーション化～」をまとめました。それから2年余りですが、従来の主要なテーマであるICT建機、マシンガイダンス、遠隔操作技術等は、社会的なAIの台頭も相まって、急激にフィジカルAI、ヒューマノイド、自律施工等に移行しつつあり、既に実証や現場実装の段階に至っています。国土交通省も「建設分野のフィジカルAI活用」を政策テーマに挙げています。中小建設業においても、近々、必須の技術となる可能性があります。

新講座開講のお知らせ

和合館工学会では、社員一人ひとりが「安心して働き続けられる現場」を実現するために新規プログラムを作成いたしました。自己理解・対話力・セルフケア力を育み、信頼関係のある職場づくり、定着率の向上、そして人材の成長を支援することを目的とした講座を提供いたします。社内研修にお役立てください！

- 1 聴く力が良好な関係をつくる「次世代リーダー研修」
- 2 心のケアが定着を守る「セルフケア研修」
- 3 組織で自分らしく活躍し続ける「キャリア自律研修」
- 4 価値観のギャップをチーム力に「対話型組織開発研修」



講座詳細は和合館工学会
ホームページをご参照ください。



講座紹介動画



講師からのコメント

現場の世代ギャップや離職にお悩みではありませんか？

建設現場を強くするのは「人の力」です。本講座(組織開発・傾聴・キャリア・セルフケア)は、一方的な講義ではなく「対話」を重視した実践型プログラムとなっております。楽しく意見を交わしながら学ぶため、現場で生きる高い学習効果が得られます。「指示待ち」から「自律駆動」へ変化し、社員が定着する安全な組織をつくります。まずは90分プレコースからお試しいだき！

地方建設業とAI

— 熟練技術者の経験を未来へつなぐ —

地方建設業では、技術者の高齢化と若手技術者の不足が大きな課題となっています。長年にわたり地域の建設を支えてきた技術者が定年を迎える一方、定年後も会社に残り、若手への助言や資格を活かした業務に携わっている方も少なくありません。しかし、「これまで培ってきた経験を、これから会社の中でどのように役立てればよいのだろうか」と考えている熟練技術者も多いのではないのでしょうか。

一方、若い世代はICTやAIを特別なものとは考えず、日常の道具として使い始めています。その姿を見ると、熟練技術者は、時代に取り残されていくように感じることもあるかもしれません。

しかし、本当にそうでしょうか。

地域に長く関わってきた技術者は、教科書やマニュアルには書かれていない多くのことを知っています。「この場所は昔から水が出る」「この川は大雨の後にここが変わる」「この構造物

を造ったときにはこんな苦労があった」。その地域で何十年も仕事をしてきたからこそ分かる知識です。

さらに熟練技術者は、若手には見過ごしてしまいそうな、現場のわずかな変化を感じ取ります。「水が少し濁っている」「コンクリートの打音がいつもより低い」「沈下に偏りがある」。こうした小さな違和感の背後には、土砂の移動、構造物の劣化、地下の地盤や構造の変化など、目には見えない異常が隠れていることがあります。熟練技術者は、長年の成功や失敗の経験と目の前の現象とを無意識のうちに照らし合わせ、「何かいつもと違う」と感じ取ります。この感覚こそ、長い年月をかけて培われた経験知であり、会社にとって大切な知的財産です。

ところが、これまでの技術伝承は、主として「師匠から弟子へ」という形で行われてきました。この方法では、伝えられる人数にも時間にも限界があります。また、若手は何を聞けばよ

いのか分からず、熟練技術者も自分にとって当たり前になっている経験の何を伝えればよいのか分からないことがあります。その結果、貴重な経験が本人の退職とともに失われてしまいます。

そこで、私はAIに新しい可能性を感じています。

AIに熟練技術者が自分の経験を語るのです。「あのとき、なぜその工法を選んだのか」「なぜ危険だと感じたのか」「どこに違和感を覚えたのか」「失敗から何を学んだのか」。大切なのは、答えだけではありません。「なぜ、そう考えたのか」という判断の過程を残すことです。

これからの技術伝承には、従来の「師匠→弟子」に加えて、「熟練技術者→AI→若手技術者」という新しい流れが生まれるのではないのでしょうか。AIは熟練技術者の経験を整理し、蓄積し、必要なときに若手が利用できる知識へと変えてくれます。

そう考えると、熟練技術者の新しい役割が見えてきます。それは、単に若手から相談を受ける「相談役」ではなく、「会社の経験を未来へ残す人」であり、さらには「AIを育てる人」です。

もちろん、AIが示す答えが常に正しいとは限りません。現場の違和感

を感じ、地域固有の事情を考え、最後に安全を判断し、その判断に責任を持つのは人です。だからこそ、これから必要なのはAIを使える技術者だけではなく、AIの答えを疑い、経験に照らして検証できる技術者だと思います。

若手はAIを使い、熟練技術者はAIを育てる。そしてAIが両者をつなぐ。

AI時代は、熟練技術者が時代遅れになる時代ではありません。むしろ、一人の技術者が長い年月をかけて得た経験を、初めて組織の財産として未来へ残せる時代が始まったのではないのでしょうか。

熟練技術者の経験がAIを育て、AIがその経験を次の世代へ届ける。

そこに、地方建設業における新しい技術伝承と人材育成の姿があると考えています。



東北工業大学 名誉教授
一般社団法人和合館工学会 学舎長
今西 肇

令和8年度建設社会人新入社員研修を実施しました

今年度で4回目となる「建設社会人新入社員研修」を開催いたしました。本研修は、受講企業・団体の課題やニーズに応じて、研修日数・開催形式(対面／オンライン)、ならびに講義プログラム内容を柔軟にカスタマイズできる点が大きな特徴です。今年度は3社・2団体において、新入社員・若手社員の育成を支援いたしました。プログラムは①社会人の教養、②建設業と建設技術者の基礎知識で構成されております。受講者からは「業界の仕組みから実務に役立つ文章・表現スキルまで幅広く学ぶことができた」という感想が寄せられました。和合館工学会では、今後も地域建設業の未来を担う人材育成と発展をサポートしてまいります。



鋭経営研究サークルの発足と活動報告

地域建設業の有志経営者の「繋がり」「学び合い」「志を共有する」場として、和合館工学会内に「鋭経営研究サークル」を発足しました。本サークルでは、全国各地で先進的な取り組みを進める幹事企業を定期的に巡り、現地視察やセミナー、意見交換を通じて先端技術や最新の経営手法・技術を学んでいます。

これまでの開催実績

- 第1回 金杉建設株式会社**(埼玉県／2026年1月16日)
テーマ ICT内製化に関する取り組み
内容 建設DXの核となるICT施工の技術やノウハウの内製化に向けた具体的なプロセスを学びました。
- 第2回 旭建設株式会社**(宮城県／2026年3月5日)
テーマ 最先端テクノロジーによる施工革新
内容 山間部の現場(椎葉村)にて、自動搬送システム、遠隔施工、AIを用いた現場監視技術を視察しました。
- 第3回 株式会社小野組**(新潟県／2026年5月27日～28日)
テーマ 人材育成と新規事業展開・先端施工技術
内容 人材確保・育成戦略や「北陸建設アカデミー」「スイーツラボ(閉鎖系いちご生産

工場)」といった異分野を含む事業展開について学びました。

今後も全国の会員企業を研修の場とし、現場視察や意見交換を行っていく予定です。

JAXA筑波宇宙センター見学会および意見交換会(2026年6月17日)

(一社)地域建設業未来研究会(CCA)との共催でJAXA筑波宇宙センターの見学会を開催しました。見学会には会員企業17社33名が参加しました。当日は施設見学のほか、JAXA職員による情報提供や活発な意見交換を実施しました。今回の見学会は、宇宙開発という一見異なる分野の最先端技術に触れることで、建設産業の未来における技術革新のヒントを多く得る大変有意義な機会となりました。



第8回定時社員総会・講演会を開催しました(2026年7月30日)

第8回定時社員総会および講演会を開催しました。総会終了後に行われた講演会では、当工学会の学舎長であり東北工業大学名誉教授の今西肇氏に「戦後の建設技術者教育の変遷と今後の展望—AIの進化と建設分野の技術の伝承—」というテーマでご講演をいただきました。地域のインフラや人々の暮らしを守る「地域建設業」の重要性が一層高まる中、これまでの教育の歴史を振り返りつつ、AI時代の技術伝承のあり方についてご説明いただきました。本講演を通じて、技術伝承の本質とAI時代の新たな教育の可能性について理解を深め、今後の地域建設業を支える人材育成への意欲を新たにする有意義な機会となりました。



令和8年度 資格試験対策講座の開催実績と今後の開講について

和合館工学会では、建設産業を担う技術者の資

格取得とステップアップを支援するため、「令和8年度 資格試験対策講座」を順次実施しております。

■前半(4月～7月)の開催実績

今年も4月から7月にかけて、以下の対策講座をオンラインにて開催いたしました。
1級土木施工管理技術検定一次検定対策講座
1級建築施工管理技術検定一次検定対策講座
技術士第二次試験 対策講座
全国から多くの受講者にご参加いただき、試験本番に向けた実践的な講義と学習サポートを行いました。

■8月下旬からの開講予定(受講生募集中)

8月下旬からは、秋の試験本番に向けた後半の対策講座がスタートいたします。
1級・2級土木施工管理技術検定二次検定対策講座
1級・2級建築施工管理技術検定二次検定対策講座
技術士第一次試験 対策講座

施工管理技士二次検定の最重要ポイントである「経験記述」の添削指導は、受講者が納得するまで何度でもマンツーマンで対応いたします。合格を目指す皆様のご参加をお待ちしております。

令和8年度アフタヌーンセミナーを開催中

建設技術者の知識向上と継続教育(CPD・CPDS認定プログラム)を目的として、「アフタヌーンセミナー」を開催しております。今年度は全14回のプログラムを編成し、公共事業の仕組みから施工管理、コンクリート技術、地盤災害、インフラ維持管理、環境・地盤改良に至るまで、建設技術者に求められる幅広い技術と実務知識を網羅的に学べる内容となっています。また、働き方改革や受講しやすさの観点から就業時間内の時間帯に開催しており、毎回約70名の皆様にご参加いただいております。9月以降も、ハザードとリスク、インフラ維持管理、地盤改良技術など、現場の実務に即した最新テーマを予定しております。スキルアップや社内教育に、本セミナーをお役立てください。



会員紹介

西田工業株式会社

私たちは1909年に西田組として京都府福知山市で創業しました。最初の仕事は大倉組商会(現大成建設株式会社)から請けた軍港整備工事だったようです。その後、通信省や鉄道省の工事をするようになり、現在は地元の福知山だけではなく、大阪と兵庫に支店や営業所を展開し、様々な公共工事・民間工事をしております。

石橋を叩いても渡らないと言われるほどの堅実経営の結果として2009年には「京の老舗」として京都府知事から100周年の表彰を受賞しました。ただ、創業100年を超える老舗企業ならではの歴史と信頼は確かな財産ですが、そこで満足し歩みを止めてしまつては衰退に繋がります。時代のその先に焦点を当て、新たな信頼と実績を積み上げるためにも私たちはシンカ発展し続け、地域社会と建設業界に貢献していきたいと思っています。



〒620-0046
京都府福知山市
字天田小字犬丸131-1
TEL. 0773-22-1001
<https://nishidakougyou.co.jp/>



会員募集のご案内

和合館工学舎は地域の社会基盤を整備し、建設文化を担う地域に密着した企業および行政の「建設総合技術力向上」を目指して活動しております。本学舎の目的に賛同いただいた企業・個人の皆様を対象に、「正会員・準会員・賛助会員（法人・個人）」の入会を受け付けております。ぜひ、本学舎への入会をご検討くださいますようお願い申し上げます。

会員特典

セミナー・講座の特徴

各種講座・セミナーを無料または会員価格で受講できます。

CPD・CPDSが取得可能なオンラインセミナーが豊富にあります。（全国どこからでも受講できます。）

会員資格	正会員	準会員	賛助会員	
			法人	個人
企業規模	地域建設会社	地域建設会社グループ	総合建設会社・建設コンサルタント ほか	個人
入会金	500,000	200,000	0	0
年会費	240,000	240,000	240,000	12,000

● 仙台北部

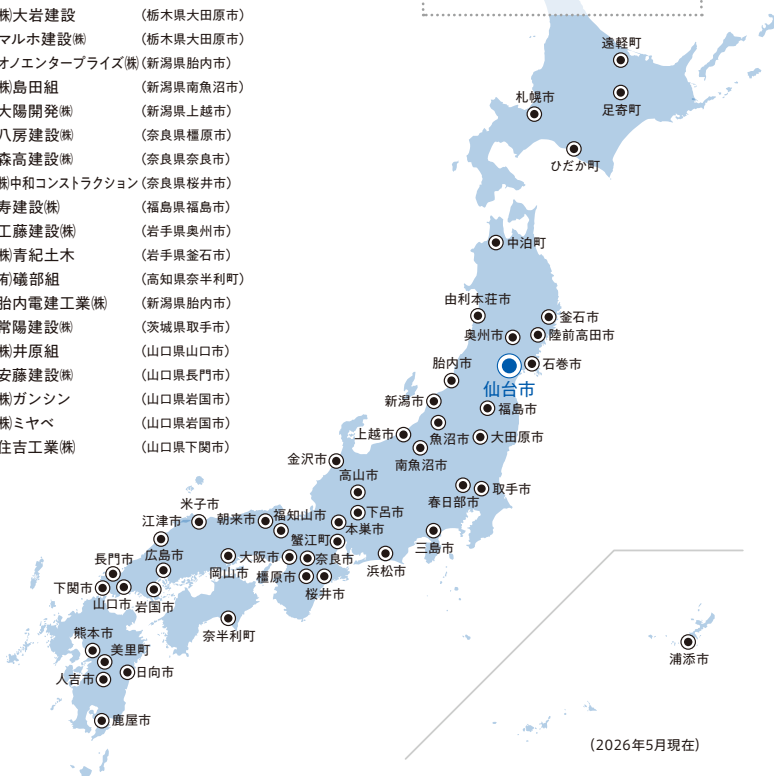
● 正会員

(株)小野組 (新潟県胎内市)
 中村建設(株) (奈良県奈良市)
 (株)中村組 (静岡県浜松市)
 (株)深松組 (宮城県仙台市)
 一三北路(株) (北海道札幌市)
 福井建設(株) (広島県広島市)
 (株)原工務所 (島根県江津市)
 (株)砂子組 (北海道札幌市)
 但南建設(株) (兵庫県朝来市)
 (株)小野工業所 (福島県福島市)
 (株)大島組 (新潟県上越市)
 伊米ヶ崎建設(株) (新潟県魚沼市)
 旭建設(株) (宮城県日南市)
 蜂谷工業(株) (岡山県岡山市)
 大政建設(株) (熊本県熊本市)
 西田工業(株) (京都府福知山市)
 三和建設(株) (奈良県奈良市)
 杉山建設(株) (岐阜県本巣市)
 加和太建設(株) (静岡県三島市)
 丸昭建設(株) (熊本県人吉市)
 (株)長谷川建設 (岩手県陸前高田市)
 (株)大沼組 (秋田県由利本荘市)
 (株)竹内組 (青森県中泊町)
 三和建設(株) (大阪府大阪市)
 加賀建設(株) (石川県金沢市)
 (株)加藤建設 (愛知県蟹江町)
 (株)吉光組 (石川県金沢市)
 (株)丸本組 (宮城県石巻市)
 (株)森建設 (鹿児島県鹿屋市)
 岩田建設(株) (熊本県美里町)
 美保テクノス(株) (鳥取県米子市)
 金杉建設(株) (埼玉県春日部市)
 (株)太名嘉組 (沖縄県浦添市)

● 準会員

(株)菅野組 (北海道遠軽町)
 齊藤井出建設(株) (北海道足寄町)
 幌村建設(株) (北海道ひだか町)
 (株)長瀬土建 (岐阜県高山市)
 馬瀬建設(株) (岐阜県下呂市)
 (株)大岩建設 (栃木県大田原市)
 マルホ建設(株) (栃木県大田原市)
 オノエンタープライズ(株) (新潟県胎内市)
 (株)島田組 (新潟県南魚沼市)
 大陽開発(株) (新潟県上越市)
 八房建設(株) (奈良県橿原市)
 森高建設(株) (奈良県奈良市)
 (株)中和コンストラクション (奈良県桜井市)
 寿建設(株) (福島県福島市)
 工藤建設(株) (岩手県奥州市)
 (株)青紀土木 (岩手県釜石市)
 (有)磯部組 (高知県奈半利町)
 胎内電建工業(株) (新潟県胎内市)
 常陽建設(株) (茨城県取手市)
 (株)井原組 (山口県山口市)
 安藤建設(株) (山口県長門市)
 (株)ガンシン (山口県岩国市)
 (株)ミヤベ (山口県岩国市)
 住吉工業(株) (山口県下関市)

正会員 **33社**
 準会員 **11グループ 24社**
 法人賛助会員 **2社**
 個人賛助会員 **6名**



● 法人賛助会員

日立建機日本(株)新潟支店 (新潟県新潟市)
 (株)奥村組東北支店 (宮城県仙台市)

(2026年5月現在)

学舎人

一般社団法人和合館工学舎
 情報誌「がくしゃん」



一般社団法人
和合館工学舎
WCCCE

一般社団法人和合館工学舎 <https://wagokan.or.jp/>

〒981-0933 宮城県仙台市青葉区柏木1丁目2-45 フォレスト仙台3階
 TEL 022-272-3130 E-mail office@wagokan.or.jp